

<b>科目名</b>	成人看護学総論 I	<b>必修/選択の別</b>	必修
<b>授業担当者</b>	塩澤 詩穂、押領司 民、小泉 京子、医師	<b>評価方法</b>	筆記試験
<b>履修年次</b>	1年・後期	<b>授業形式</b>	講義
<b>単位数</b>	1単位	<b>時間数</b>	30時間

### <到達目標>

1. 成人期の発達課題の特徴と現代社会における健康問題について学ぶ
2. 成人への看護アプローチの基本を学ぶ
3. 成人期にある人の様々な健康段階にある対象への看護を学ぶ(急激な健康破綻にある人、慢性病と共存している人)
4. 大人の学習者である患者への看護技術を学ぶ

### <授業内容>

- 第1回・第2回 成人の生活(第1章) 対象の理解:大人になること…生涯発達、各発達段階の特徴を理解する  
対象の生活:働いて生活を営むこと…生活、仕事、家族から大人について考える 4H 講師:塩澤詩穂
- 第3回 成人の生活と健康(第2章) 成人を取り巻く環境と生活からみた健康 2H 講師:塩澤詩穂
- 第4回 成人の生活と健康(第2章) 生活と健康をまもりはぐくむシステム…保健・医療・福祉システムの概要と連携  
小児期から成人期、老年期と発達する過程を支える連携の重要性を学ぶ 2H 講師:塩澤詩穂
- 第5回・第6回 成人への看護アプローチの基本(第3章) 4H 講師:押領司民
- 第7回 ヘルスプロモーションと看護(第4章) ヘルスプロモーションを促進する看護の場と活動 2H 講師:西山敦士
- 第8回・第9回 健康をおびやかす要因と看護(第5章) 4H 講師:塩澤詩穂  
健康バランスに影響を及ぼす要因…ストレスとストレスマネジメント  
生活行動がもたらす健康問題とその予防…就業・労働形態がもたらす健康問題  
学習者である患者への看護技術(第10章)  
エンパワメントエデュケーションとは何か セルフマネジメントを推進する看護技術について理解する
- 第10回・第11回 健康生活の急激な破綻から回復を促す看護(第6章) 4H 講師:病院看護師  
健康の急激な破綻…生命の危機状態、急性期にある人の特徴を学ぶ  
急性期にある人々への看護…危機にある人への支援、合併症の予防  
健康破綻から回復を促進する看護、家族の看護を学ぶ
- 第12回・第13回 慢性病との共存を支える看護(第7章) 4H 講師:病院看護師  
慢性病患者の理解…慢性病患者の経験する無力感、病みの軌跡を学ぶ  
首尾一貫感覚、健康信念モデル、コントロールの所在とは  
慢性病との共存を支える看護の実践…エンパワメント、セルフケアマネジメントとは  
セルフケアマネジメント支援の構成要素とは
- 第14回・第15回 療養の場を移行する人々への看護技術(第13章) 4H 講師:小泉京子

### <授業方法>

全ての授業でパワーポイントを使用し講義形式で教室にて行います。教員作成の配布資料と、下記の必須図書を使用します。授業の際には毎回教科書を持参してください。

### <評価方法の詳細>

授業時間2/3以上の出席をもって筆記試験を受ける資格が得られる。  
評価は後期終講試験において合計100点の筆記試験を実施し評価する。

### <必携図書>

系統別看護講座 専門分野Ⅱ成人看護学総論, 医学書院

### <自己学習のポイント及び参考図書>

講師が複数で担当するため講義資料はファイリングし講師と授業内容がわかるようにしておきましょう。  
成人期の人々を取り巻く背景に興味・関心を持ちましょう。並行して学んでいる小児と老年の違いは何か、比較し、成人期とはどんな人々であるのか考えていけるとよいと思います。

### <履修上の注意点>

講師が複数で担当するため講義資料はファイリングし講師と授業内容がわかるようにしておくといいです。

### <学生に向けてのメッセージ>

成人期は十代の若者から60歳代の老年期直前の方まで幅広いです。そのため成人期は長い経過の中で多くの経験をし、役割が変化していきます。そんな成人期の人たちは、健康を障害されても、我慢したり、無自覚であったり、なかなか自分の健康に向き合えない方も多くいます。それはなぜか。決してその人の自己責任とはいえません。それには時代の変化や社会的背景の変化など様々な要因が影響しています。成人期を取り巻く背景に興味関心を持ち、ともに学びましょう。

科目名	成人看護学総論Ⅱ	必修/選択の別	必修
授業担当者	塩澤 詩穂	評価方法	総合評価
履修年次	2年・前期	授業形式	講義
単位数	1単位	時間数	15時間

#### <到達目標>

1. 成人期における対象の特徴を社会的決定要因(SDH)の中の生活と労働の観点から理解する
2. 成人期における対象の生活と労働の実態を知り、生活、労働と健康との関係から看護の役割を考えることができる
3. 健康問題の発生要因が日常生活・労働と深く密着していることを理解し、健康の保持・増進、予防のための視点を理解することができる

#### <授業内容>

- 第1回 農業労働者の健康問題 農業労働者に多い病気の理解  
労働体験オリエンテーション お世話になる農家の住む地域について調べる。質問を考える。 2H
- 第2回 労働体験に向けた道の確認 実際に当日のルートを各自確認する。 1H
- 第3回～第6回 各労働者のお宅に行き、1日労働体験を行う。2人もしくは3人1組で各農家宅へ行き農業体験をする 8H
- 第7回・第8回 労働体験まとめ発表会 労働体験後にまとめたレポートを発表しクラス全員で共有する 4H

#### <授業方法>

第1回はパワーポイントを使い一部講義を行った後、オリエンテーションを行います。その後ペアを発表し、ペアごとに質問を考えてもらいます。第2回の労働体験は、朝から各お宅へ学生自身で向ってもらい、8時間の体験をそれぞれに乗り合わせるなどして行ってもらいます。第2回授業の前に、お宅への行き方を確認してもらい時間をとります。第3回の授業はまとめ発表会となります。

#### <評価方法の詳細>

授業時間の2/3以上である出席と、提出物、授業態度で評価します。  
また、労働体験は代替授業であるため、欠席した場合には別日に農家宅へ行き体験をしてもらいます。

#### <必携図書>

小松浩子他 系統別看護講座 専門分野Ⅱ成人看護学総論, 医学書院

#### <自己学習のポイント及び参考図書>

農家のお宅へ体験に行きます。山梨県内の主要産業の一つである農業について、特徴や課題など調べておくとよいでしょう。関心を持ち、ニュースや新聞をみておきましょう。  
農業労働者の方の中にも、成人期に多い生活習慣病などの疾患や障害を抱えながら働く人は少なくありません。生活習慣病とは何か、原因は何か、どのような指導が必要なのかを、これまでの成人看護学総論Ⅰ、成人臨床看護、病理学などの授業資料などを用い振り返ること、あるいは予習しておきましょう。

#### <履修上の注意点>

第3回の労働体験は代替が必要な授業です。やむをえず欠席となった場合は代替授業を行う必要があります。第4回のまとめ発表をやむを得ず欠席した場合は、まとめレポートを読んでもらい感想文を書いてもらいます。繁忙期の農家宅に伺い貴重な学びを得る機会となります。体調を整え、極力お休みなく参加できるようにしていきましょう。

#### <学生に向けてのメッセージ>

小学校や中学校などで、職業体験をしたことがある学生は少なくないと思います。今回は働く生活者の立場に立ち体験することで、より労働者の健康についてイメージすることが出来ると思います。

科目名	成人看護学総論Ⅲ	必修/選択の別	必修
授業担当者	塩澤 詩穂、看護師、社会保険労務士	評価方法	レポート評価
履修年次	2年・前期	授業形式	講義
単位数	1単位	時間数	30時間

#### <到達目標>

1. 健康問題の発生要因が社会的決定要因と深く関連していることを理解する
2. 成人期の健康障害が対象の社会生活や家族及び社会に及ぼす影響を理解する
3. 健康障害を持ちながら生活する成人期の人々への看護の視点、果たすべき役割について学ぶ
4. 成人期にあるがん患者の身体的・精神的・社会的苦痛を総合的に理解し、根拠に基づいた看護を学ぶ

#### <授業内容>

- 第1回 成人期の人々の生活と労働(第5章) 現代社会の労働、不適切な労働が身体に及ぼす影響 2H 講師:塩澤詩穂  
 第2回 成人期の人々の生活と労働(第4、5章) 健康格差と健康の社会的決定要因とは 2H 講師:塩澤詩穂  
 第3回 成人期の人々の健康をはぐくむ支援(第4章) 健康増進、労働者の健康施策  
 労働安全衛生法を中心とした関係法規 2H 講師:塩澤詩穂  
 第4回 成人期にある人々の労働と生活の実態「身近な人々の労働実態調査」グループワーク 2H 講師:塩澤詩穂  
 第5回 成人期にある人々の労働と生活の実態「身近な人々の労働実態調査」グループごとに発表 4H 講師:塩澤詩穂  
 第6回・第7回 がん看護(1) 4H 講師:富士吉田市立病院 がん看護専門看護師 小池賀津江  
 第8回・第9回 がん看護(2) 4H 講師:甲府共立病院 緩和ケア認定看護師 高橋知子  
 第10回・第11回がん看護(3) 4H 講師:甲府共立病院 緩和ケア認定看護師 高橋知子  
 第12回 成人の健康を予防の立場でとらえる 健診活動の意義(第2章) 2H 講師:健診センター看護師  
 第13回・第14回 成人期の健康問題を社会からみる「労働者を取り巻く社会と労働実態をみる」当事者授業  
 4H 講師:社会保険労務士 富永弘徳  
 第15回 成人期の労働と健康と看護 成人看護学総論Ⅲまとめ 2H 講師:塩澤詩穂

#### <授業方法>

第1回～第11回までは、パワーポイントと授業資料を使用し講義形式で授業を行います。第8回の富永講師の授業は映像と講師が用意した授業資料を用いた講義と、グループワークです。第9回の授業はまとめになります。ワークシートを使用しながらグループで演習を行います。

#### <評価方法の詳細>

授業時間2/3以上の出席をもってレポート評価の資格が得られる。  
 評価は最終の授業で提示した内容で評価レポートに取り組み、優・良・可をもって評価する。評価レポートであるため、提示された期日、指定の書式、字数を満たしていることが絶対条件である。  
 第8回の富永講師による授業は当事者授業となります。代替授業となるため、欠席した場合は課題に取り組む必要がある。

#### <必携図書>

系統別看護講座 専門分野Ⅱ成人看護学総論, 医学書院(塩澤、健診センターNS、富永)  
 系統別看護学講座 別巻 がん看護学, 医学書院(小池賀津江講師ほか)

#### <自己学習のポイント及び参考図書>

1年次に学んだ成人看護学総論Ⅰの知識がベースとなるため、授業資料を振り返っておくとよいです。  
 成人期の人たちが働く社会背景について、様々なニュースや文献をみておくとう理解が深まります。  
 お勧め図書:近藤克則著「健康格差社会を生き抜く」朝日新書 雨宮処凛著「排除の空気に唾を吐け」講談社現代新書  
 マイケル・マーモット著「健康格差」日本評論社 他、労働に関する書籍

#### <履修上の注意点>

講師が複数で担当するため講義資料はファイリングし講師と授業内容がわかるようにしておくといよいです。  
 夏季休暇中に「身近な人の労働実態調査」を課題として取り組んでもらいます。休暇明けの授業で演習・発表を行う予定です。詳しい内容、提出期日は授業内でお伝えします。

#### <学生に向けてのメッセージ>

成人期というのは最も長く、様々な役割や責任を持ち生活する時期です。みなさん自身も成人期ですし、みなさんのご家族も多くは成人期の方々であり、もっとも身近な存在といえるでしょう。そんな成人期の人々にとって労働は生活そのものであり、どんなに健康でありたいと願っても、労働環境、それを取り巻く社会背景が大きく影響し、身体・精神・社会的な健康がゆらぎます。私たちが暮らす社会、労働に目を向け、成人期の人々の健康のあり方について一緒に考えていきましょう。

<b>科目名</b>	成人臨床看護 I	<b>必修/選択の別</b>	必修
<b>授業担当者</b>	臨床検査技師、臨床放射線技師	<b>評価方法</b>	筆記試験
<b>履修年次</b>	1年・後期	<b>授業形式</b>	講義
<b>単位数</b>	1単位	<b>時間数</b>	30時間

#### <到達目標>

- 1.健康回復を支援するための特徴的な治療、検査について理解し、看護の必要性を学ぶ
  - 2.各疾患に関連する検査法について理解し、検査における看護の役割を学ぶ
- 1臨床検査 2放射線医学

#### <授業内容>

- 第1回・第2回 臨床検査総論 生理検査 I「循環・呼吸・神経機能」 4H 講師:臨床検査技師  
 第3回・第4回 血液学的検査・一般検査 臨床化学検査 4H 講師:臨床検査技師  
 第5回・第6回 生理検査 II「細菌検査」 4H 講師:臨床検査技師  
 第7回・第8回 免疫・血液検査「体空液・病理検査」 4H 講師:臨床検査技師  
 第9回・第10回 機能検査 検査室見学 4H 講師:臨床検査技師  
 第11回・第12回 序章 放射線医学の成り立ちと意義 医療における放射線医学の役割 4H 講師:臨床放射線技師  
 第13回・第14回 画像診断と看護 X線診断・CT・MR 4H 講師:臨床放射線技師  
 第15回 核医学検査 血液造影 放射線治療 放射権による障害と防護 2H 講師:臨床放射線技師

#### <授業方法>

第5回の病院見学を除き、全てパワーポイントを使用した講義形式です。

#### <評価方法>

成人臨床看護 I 放射線医学10時間と合わせ、授業時間20時間以上の出席をもって筆記試験の受験資格が得られる。評価は後期終講試験において合計100点の筆記試験を実施し評価する。

#### <必携図書>

系統別看護学講座 別館 臨床検査,医学書院

#### <自己学習のポイント及び参考図書>

基礎的な解剖生理や疾患の知識も重要と成るため、これまでの解剖生理学、病理学、成人臨床看護などの授業内容を振り返り授業にのぞみましょう。また、以下の医学映像セレクトの視聴をすすめます。

- 医学映像セレクト 臨床検査:「看護 生体のしくみ 3集 心電図(vol.17)」  
 「看護 生体のしくみ 3集 心電図の誘導(vol.17)」  
 「看護 生体のしくみ 6集 肺気量分画(vol.33)」  
 「看護 生体のしくみ 6集 気道抵抗(vol.33)」  
 「看護 生体のしくみ 6集 尿の性質(vol.36)」  
 「看護 生体のしくみ 6集 尿の科学的性状(1)(vol.36)」  
 「看護 生体のしくみ 6集 尿の科学的性状(2)(vol.36)」

#### <履修上の注意点>

講師が複数で担当するため講義資料はファイリングし講師と授業内容がわかるようにしておきましょう。

#### <学生に向けてのメッセージ>

検査の知識は患者さんの病態理解を行ううえで欠かせない知識です。臨床で活躍する専門職から、得る貴重な学びを大いに吸収し、今後の実習や看護師としての知識技術へ繋げていくことを願っています。

<b>科目名</b>	成人臨床看護Ⅱ	<b>必修/選択の別</b>	必修
<b>授業担当者</b>	河西光子、酒井茉莉耶、武田真弓	<b>評価方法</b>	筆記試験
<b>履修年次</b>	1年・後期	<b>授業形式</b>	講義
<b>単位数</b>	1単位	<b>時間数</b>	30時間

#### <到達目標>

各疾患の病態生理、症状、経過、検査、治療法を理解し、それらに必要な看護について学ぶ。

①呼吸器疾患看護 ②消化器疾患看護 ③循環器疾患看護

#### <授業内容>

呼吸器看護 講師:河西光子 10H

第1回～2回 呼吸器疾患の動向

呼吸疾患に主にみられる症状と看護 咳嗽・喀痰・胸水 4H

第3回～4回 呼吸疾患に主にみられる症状と看護 呼吸困難

慢性閉塞性肺疾患をもつ患者の看護 4H

第5回 人工呼吸器を装着した患者の看護 2H

消化器看護 講師:酒井茉莉耶 10H

第6回 総論消化器疾患と看護の特徴 (第1章)

第7回・第8回 疾患別看護 胆石患者の看護 肝炎患者の看護 肝硬変患者の看護 (第6章)

第9回・第10回 食道癌患者の看護 胃・十二指腸潰瘍患者の看護 胃癌患者の看護 膵炎患者の看護

イレウス患者の看護 大腸癌患者の看護

循環器看護 講師:武田真弓 10H

第11回 疾病の経過と看護 疾病の経過と看護

第12回 症状に対する看護 症状に対する看護

第13回 検査を受ける患者の看護 血行動態モニタリングを受ける患者の看護

第14回 治療を受ける患者の看護 カテーテル治療を受ける患者の看護

第15回 疾患をもつ患者の看護 虚血心疾患患者の看護

心不全患者の看護 心臓リハビリテーションと看護 急性心不全患者の特徴と看護

#### <評価方法の詳細>

授業時間の2/3以上の出席をもって筆記試験の受験資格が得られる。

後期終講試験において合計100点の筆記試験を実施し評価する。

#### <必携図書>

浅野浩一郎他「系統看護学講座 専門分野Ⅱ 成人看護学② 呼吸器」医学書院

金田智他「系統看護学講座 専門分野Ⅱ 成人看護学⑤ 消化器」医学書院

吉田俊子他「系統看護学講座 専門分野Ⅱ 成人看護学③ 循環器」医学書院

#### <自己学習のポイント及び参考図書>

医学映像セレクトの視聴

呼吸器看護:「看護 生体のしくみ 6集 ガスの拡散(Vol.31)～血ガス・呼吸音(Vol.33)」

「看護 看護のための病態生理とアセスメント 呼吸障害(vol.4)」

「看護 ME機器の知識と技術 Vol.3 低圧持続吸引器」

「看護 実践!看護技術シリーズ Vol.2 胸腔穿刺の実際」

消化器看護:「看護 生体のしくみ 8集 胃の構造(Vol.43)～膵臓の内分泌(Vol.48)」

「看護 生体のしくみ 9集 腹膜の構造、腹膜の働き(1)～コレステロールの作用(Vol.53)」

「看護 生体のしくみ 9集 腹膜の構造、腹膜の働き(1)～コレステロールの作用(Vol.53)」

「看護 実践!看護技術シリーズ 診療に関わる技術編 検査時の看護1(Vol.1)

上部消化管内視鏡の実際 下部消化管内視鏡の実際」

循環器看護:「看護 実践!看護技術シリーズ Vol.1 診療に関わる技術編検査時の看護

心臓カテーテル検査の実際」

「看護 生体のしくみ 3集 心臓の外観(Vol.13)～バイパス循環(Vol.18)」

#### <履修上の注意点>

複数の講師が担当するため講義資料はファイリングし、講師と授業がわかるようにしておく。

#### <学生に向けてのメッセージ>

<b>科目名</b>	成人臨床看護Ⅲ	<b>必修/選択の別</b>	必修
<b>授業担当者</b>	鈴木、新藤、押領司、大森	<b>評価方法</b>	筆記試験
<b>履修年次</b>	2年・前期	<b>授業形式</b>	講義
<b>単位数</b>	1単位	<b>時間数</b>	30時間

### <到達目標>

各疾患の病態生理、症状、経過、検査、治療法を理解し、それらに必要な看護について学ぶ。  
1内分泌疾患看護 2脳神経疾患看護 3血液疾患看護 4腎疾患看護

### <授業内容>

内分泌看護 6H 講師:鈴木美緒  
第1回 肥満とは 肥満の判定 肥満の蓄積部位と肥満 肥満の分類 肥満と疾患との関係(第5章)  
第2回 脂質異常症・痛風 脂質異常症患者・痛風の治療と看護(第5・6章)  
第3回 内分泌の構造と機能 内分泌とは 標的細胞と標的器官 フィードバック機構(第5章)  
主な内分泌器官とその働き 内分泌疾患患者の看護(第6章)  
脳神経疾患看護 8H 講師:新藤裕治  
第4回・第5回 脳神経疾患看護概論、脳神経疾患理解に必要な解剖生理  
第6回・第7回 主な脳神経疾患の概要(治療、症状、疾病管理について)、脳神経疾患患者への看護(急性期)  
血液疾患看護 8H 講師:民  
第8回・第9回 血液疾患の特徴  
第10回・第11回 血液・造血器機能障害患者の看護  
腎疾患看護 8H 講師:大森泉  
第12回・第13回 医療の動向と看護 腎疾患患者の看護(第1章)(第6章)  
第14回・第15回 透析療法(第6章)

### <授業方法>

教科書及び授業で配布する資料を使い、パワーポイントに沿って講義する。

### <評価方法の詳細>

授業時間2/3以上の出席をもって筆記試験の受験資格が得られる。  
評価は前期終講試験において合計100点の筆記試験を実施し評価する。

### <必携図書>

黒江ゆり子他 系統看護学講座 専門分野Ⅱ 成人看護学⑥,内分泌,医学書院  
井出隆文他 系統看護学講座 専門分野Ⅱ 成人看護学⑦,脳・神経,医学書院  
飯野京子他 系統看護学講座 専門分野Ⅱ 成人看護学④,血液・造血器,医学書院  
大東貴志他 系統看護学講座 専門分野Ⅱ 成人看護学⑧,腎・泌尿器,医学書院

### <自己学習のポイント及び参考図書>

田中越郎他「系統看護学講座 疾病の成り立ちと回復の促進2病態生理学」医学書院  
脳神経疾患看護では、復習に重点を置き、講義において理解できなかった箇所をまとめることを勧める。  
脳神経疾患看護の講義では、「病気がみえる7脳・神経(メディックメディア)の図・表を使用していることが多いため、復習時に参考図書として 用いると効果的な復習が可能となる。

### <履修上の注意点>

医学映像セレクトの視聴  
内分泌看護:「看護 生体のしくみ Introduction内分泌器官とホルモン(vol.93)～糖質コルチコイドの作用(vol.96)」  
脳神経看護:「看護 看護のための病態生理とアセスメント 意識障害(vol.9)」  
「看護 看護のための病態生理とアセスメント 高次脳機能障害(vol.1.3)」  
血液看護:「医学 病気の基礎知識病気の成り立ち・病態と治療 血液の領域(vol.1)」  
「看護 看護のための病態生理とアセスメント 浮腫・脱水(vol.6)、排尿障害(vol.8)」  
腎看護:「看護 生体のしくみ 尿酸の代謝、クレアチニンの代謝(vol.54)」  
「看護 看護のための病態生理とアセスメント 浮腫・脱水(vol.6)、排尿障害(vol.8)」

### <学生に向けてのメッセージ>

内分泌疾患と代謝疾患は慢性疾患の代表的なものであり長期の管理が必要です。慢性疾患看護について学びを深めまし。解剖生理学Ⅱの学習を基盤としているため、解剖生理学Ⅱを復習し臨むこと(新藤・押領司)

科目名	成人臨床看護Ⅳ	必修/選択の別	必修
授業担当者	病院看護師、押領司 民	評価方法	筆記試験
履修年次	2年・後期	授業形式	講義
単位数	1単位	時間数	30時間

#### <到達目標>

1. 外科的治療の特徴を理解し必要な看護を学ぶ。
2. 手術によっておこる生体反応を学び、術後合併症の予防に向けた看護を学ぶ。
3. 手術に向う患者の心理を理解する。 ①外科看護 ②運動器疾患看護 ③周手術期看護

#### <授業内容>

##### 外科看護

- 第1回・第2回 1. 外科看護とは、外科看護の特徴 2. 術前看護について、術後合併症とは 3. 手術後患者の看護  
4. 術後合併症の予防・対策 5. 創傷治癒過程における看護 4H 講師:病院看護師
- 第3回 6. 肺癌切除術の看護 (第1章) 7. 乳房切除術の看護 (第1章) 2H 講師:看護師
- 第4回・第5回 8. 食道手術患者の看護 (第3章) 9. 胃切除術患者の看護 (第3章) 4H 講師:看護師
- 第6回・第7回 10. 肝がん患者の看護 (第3章) 11. 胆嚢炎、膵臓癌患者の看護 (第3章) 4H 講師:看護師
- 第8回・第9回 12. 急性虫垂炎患者の看護 (第3章) 13. イレウス患者の看護 (第3章) 4H 講師:病院看護師
- 第10回・第11回 14. 肛門疾患患者の看護 (第3章) 15. 直腸・結腸癌患者の看護 (第3章) 4H 講師:病院看護師

##### 運動器疾患看護

- 第12回・第13回 整形外科看護:骨折について (第5章) 4H 講師:病院看護師

##### 周手術期看護

- 第14回・第15回 周手術期看護 (第6章～第9章) 4H 講師:押領司民

#### <授業方法>

全ての授業でパワーポイントを使用し講義形式で行います。

#### <評価方法の詳細の詳細>

授業時間2/3以上の出席をもって筆記試験の受験資格が得られる。  
評価は後期終講試験において合計100点の筆記試験を実施し評価する。

#### <必携図書>

系統看護学講座 別巻 臨床外科看護総論,医学書院  
系統看護学講座 別巻 臨床外科看護各論,医学書院  
系統看護講座 専門分野Ⅱ 成人看護学⑩ 運動器,医学書院

#### <自己学習のポイント及び参考図書>

医学映像社セレクトの視聴  
「看護 看護のためのアセスメント事例集 大腿骨頸部骨折患者の看護事例(vol.1)」  
「看護 看護のためのアセスメント事例集 胃切除術を受けた患者の看護事例(vol.2)」  
「看護 看護のためのアセスメント事例集 直腸切除術を受けた患者の看護事例(vol.4)」

#### <履修上の注意点>

講師が複数で担当するため講義資料はファイリングし講師と授業内容がわかるようにしておきましょう。  
外科実習で活用できるよう整理しておくこと。

#### <学生に向けてのメッセージ>

手術は生体への侵襲を伴う治療法です。手術により身体の変容がもたらされたり、術後の経過によっては社会生活や精神面へ大きな影響を受けたり、予後が左右されることも少なくありません。その家族が抱く不安もまた計り知れません。そんな時看護師の果たす役割はきわめて大きいものです。治療に対する不安や苦痛を抱える患者やその家族の安全・安楽を保障するための看護を追求していけるよう、興味を持ち、楽しく学んでほしいと思います。

科目名	老年看護総論 I	必修/選択の別	必修
授業担当者	大学教員、病棟看護師	評価方法	筆記試験
履修年次	1年・後期	授業形式	講義
単位数	2単位	時間数	30時間

#### <到達目標>

1. 老年期にある対象の老化に伴う各種機能の変化をつかみ、発達し続ける存在としての老人観を学ぶ。
2. 対象の生活史をとらえ。人権を尊重する知識と態度を養う。
3. 対象の健康をとりまく家族・地域・社会環境から捉え、人権を守り、よりよく生きるための保健・医療・福祉政策について学ぶ。

#### <授業内容>

- 第1回・第2回 老化とは 老年看護総論の組み立て(導入)、老化とは、発達とは、老年期とは 4H
- 第3回・第4回 身体的特徴 外見上の変化、機能上の変化(①運動機能 ②感覚機能 ③生理機能 ④高齢者の疾患の特徴)
- 第5回・第6回 精神的特徴 脳に起こる変化、知的機能(①流動性能力 ②結晶性能力 ③老年者の知的機能に影響する要因) 4H
- 第7回・第8回 社会的特徴 社会生活上の変化、老いの自覚、喪失と適応、現在の高齢者が生きてきた年代の社会の動き生活史を考える 戦争・戦後復興・高度経済成長・バブル崩壊①家庭②教育③遊び④結婚⑤労働・経済 4H
- 第9回・第10回 高齢者の健康と生活 高齢社会とは(人口ピラミッドの推移など)、高齢者の健康世帯構造の変化、経済状況、要介護高齢者の増加と介護問題 4H
- 第11回・第12回 高齢者の福祉と人権 高齢者福祉の歩み(戦前・戦後・現在)老人福祉法、老人保健法、介護保険法の流れの理解  
高齢者と医療・年金制度、高齢者福祉の現状 4H
- 第13回・第14回 高齢者問題 高齢者の権利擁護  
プロフェッショナル仕事の流儀「在宅ホスピタル医」 NHKスペシャル「老衰死穏やかな最期を迎えるには」
- 第15回 まとめ 2H

#### <授業方法>

講師作成のパワーポイントを用いて教科書、国民衛生の動向を参照しながら講義形式ですすめる。

#### <評価方法の詳細>

授業時間2/3以上の出席をもって筆記試験の受験資格が得られる。  
評価は後期終講試験において合計100点の筆記試験を実施し評価する。

#### <必携図書>

系統看護学講座 専門分野Ⅱ 老年看護学  
系統看護学講座 専門分野Ⅱ 老年看護 病態・疾患論

#### <自己学習のポイント及び参考図書>

老人保健、社会制度、社会問題に関する新聞やメディア、インターネットの記事を日頃から関心を持って意識的に確認すること。(例:高齢化社会、介護保険制度、孤独死、高齢者の自殺、延命治療など)

#### <履修上の注意点>

配布された資料はわかりやすいようにファイリングし整理しておくこと。

#### <学生に向けてのメッセージ>

高齢者の方々がかどのような歴史の中で生活をしてきて、日本の経済を支え、そしてどのような加齢の変化を遂げているのか、一般的な知識について学びます。また超高齢社会を迎え、高齢者を取り巻く環境は変化しています。高齢者の権利、高齢者にとって生活しやすい社会とはどのようなものなのか一緒に学びましょう。

<b>科目名</b>	老年看護学総論Ⅱ	<b>必修/選択の別</b>	必修
<b>授業担当者</b>	岩波 美和	<b>評価方法</b>	総合評価
<b>履修年次</b>	1年・後期	<b>授業形式</b>	演習 体験 グループワーク 当事者授業
<b>単位数</b>	1単位	<b>時間数</b>	30時間

**<到達目標>**

体験や演習を通して、高齢者の生活機能の観点からアセスメントし、看護に活かす力を養う。

**<授業内容>**

第1回 オリエンテーション 2H

授業のスケジュール、内容、注意点、持ちもの、服装等について説明を行います。

第2回・第3回 高齢者疑似体験 4H

高齢者の身体的な特徴を疑似的に体験できる「もみじ箱」を装着し、加齢による身体的変化が日常生活や精神面に与える影響について感じ高齢者の立場に立って考える観点を養います。

第4回・第5回 高齢者のあゆみ(当事者授業) 4H

当事者の語りを通じて、目の前にいる高齢者の。

第6回・第7回 甲府健康友の会会員との交流 グランドゴルフ 4H

高齢者とグランドゴルフを行い、交流を通じて、高齢者の理解を深めます。

第8回～第11回 甲府健康友の会会員との交流 インタビュー 各4H

高齢者へのインタビューを通じて生活史を高齢者に聴取する意味について学びます。さらに、高齢者の生活実態も合わせて理解します。グループに分かれて、発表会に向けた準備も行います。

第12回・第13回 老人介護保険施設の理解 4H 講師:老人介護保険施設関係者

介護サービスを利用している高齢者の方々の生活実態について学びます。

第14回・第15回 インタビューの発表 4H

インタビューを通して得た学びをクラスで共有し、高齢者観を深めます。

**<授業方法>**

上記内容を参照して下さい。

**<評価方法の詳細>**

総合評価

授業時間2/3以上の出席、演習に取り組む姿勢、提出物、発表会参加の姿勢をもって総合的に評価する。

**<必携図書>**

特になし

**<自己学習のポイント及び参考図書>**

老年看護学総論Ⅰの授業内容を演習前に以下の内容について復習することで学びが深まります。

2回目の授業の高齢者疑似体験、第4回目のグランドゴルフ:高齢者の身体・精神・社会的特徴

3回目の当事者授業、5・6回目のインタビュー:生活史

7回目の授業:高齢者の健康と生活、高齢者の福祉と人権、高齢者問題

**<履修上の注意点>**

第1回・第2回以外の授業は代替授業となるため、欠席した場合は課題に取り組む必要がある。

**<学生に向けてのメッセージ>**

老年総論Ⅰで学んだことを、総論Ⅱでは実際に高齢者の語りを聞き、コミュニケーションをとって、高齢者の姿や動作、生活の様子から、感じとっていきます。

代替えがきかない授業であるため1回1回の授業や演習に集中して欲しいと思っています。

グループで協力し、お互いの学びを共有し、高齢者の方々を生活の視点で捉えることができるような、豊かな高齢者観を育てましょう。

<b>科目名</b>	老年臨床看護	<b>必修/選択の別</b>	必修
<b>授業担当者</b>	岩波 美和	<b>評価方法</b>	筆記試験
<b>履修年次</b>	1年・後期	<b>授業形式</b>	講義 演習 グループワーク
<b>単位数</b>	1単位	<b>時間数</b>	30時間

#### <到達目標>

1. 老年期の健康問題の特徴をふまえ、よりよく生きるための看護の役割を学ぶ。
2. 老年期の発達をふまえ、老年期における疾病とその過程の特徴を学ぶ。
3. 高齢者の医療要求を実現させるための民主的集団医療チームおよび看護の役割を学ぶ。
4. 終末期における老年期の看護を考える。

#### <授業内容>

- 第1回・第2回 老年症候群（脱水、浮腫、低栄養） 4時間  
 第3回・第4回 老年症候群（嚥下障害と誤嚥性肺炎、抑うつ） 3時間  
 高齢者と薬物動態 1時間  
 第5回 廃用症候群 不動の体験 2時間  
 第6回・第7回 廃用症候群（褥瘡） 4時間  
 第8回 高齢者の終末期の看護 1時間 講師：音楽療法士・看護師 小田切佳仁  
 第9回 終末期に必要な看護 講義とグループワーク 3時間  
 第10回・第11回 高齢者の終末期の看護 講義とグループワーク 4時間  
 第12回・第13回 認知症の患者への看護 4時間 講師：認知症認定看護師  
 第14回 認知症の患者への看護 2時間 講師：認知症認定看護師  
 第15回 老年臨床看護まとめ 2時間

#### <授業方法>

指定された内容の事前学習  
 講義 演習 グループワーク DVD

#### <評価方法の詳細>

授業時間2/3以上の出席をもって筆記試験を受ける資格が得られる。  
 評価は後期終講試験において合計100点の筆記試験を実施し評価する。

#### <必携図書>

系統看護学講座 専門分野Ⅱ 老年看護学  
 系統看護学講座 専門分野Ⅱ 老年看護 病態・疾患論

#### <自己学習のポイント及び参考図書>

授業の進行状況に合わせて事前学習課題を提示します。事前学習項目は①脱水、②浮腫、③低栄養、④咀嚼と嚥下、⑤誤嚥性肺炎、⑥廃用症候群（骨・筋肉の変化）、⑦褥瘡の7つになります。授業前に課題に取り組むことで予習になり、授業を受ける際に理解が深まりやすくなることや、主体的に授業を聴講することにつながります。

さらに、事前学習課題は実習に直結する内容になっています。

参考図書：系統看護学講座 専門基礎 解剖生理学 人体と構造の機能① 系統看護学講座 専門基礎 病態生理学 疾病の成り立ちと回復の促進

目で見るからだのメカニズム 第2版

看護過程に沿った対象看護 病態生理と看護のポイント 第4版

#### <履修上の注意点>

授業で提示した課題は評価対象になります。

#### <学生に向けてのメッセージ>

老年看護学はその字のとおり老年期にある高齢者を看護の対象としています。

老年看護総論Ⅰ、Ⅱでは健康な高齢者の加齢的な変化や高齢者を取り巻く環境、生活実態などを学びます。

その学びを基礎として、この老年臨床看護では疾患を抱える高齢者の看護や、終末期の看護、認知症の看護など高齢者に起こりやすい特徴を踏まえた看護について学んでいきます。

人生の大先輩である方々が、より良く生活していくための看護を学んでいきましょう。

<b>科目名</b>	小児看護総論 I	<b>必修/選択の別</b>	必修
<b>授業担当者</b>	藤本 未央	<b>評価方法</b>	総合評価
<b>履修年次</b>	1年・後期	<b>授業形式</b>	講義
<b>単位数</b>	1単位	<b>時間数</b>	15時間

#### <到達目標>

1. 成長発達に影響を及ぼす諸要因を知り、発達には個別性があることを理解する。
2. 子どもと家族を取り巻く社会を理解し、子どもが健やかに成長していくための環境について考える。
3. 子どもの権利条約、児童憲章などの学習を通して子どもの人権について学ぶ。

#### <授業内容>

第1回・第2回 小児看護の特徴、小児看護の変遷 4H

小児期とは  
小児と家族の諸統計  
小児看護の変遷  
小児看護における理論と倫理  
小児看護の役割

第3回～第6回 小児の成長・発達 8H

成長・発達とは  
成長・発達に影響する因子  
成長・発達の評価

第7回・第8回 小児の人権について 3H

児童福祉法  
医療費の支援  
予防接種  
臓器移植法  
子どもの虐待

#### <授業方法>

講師作成のパワーポイントと教科書を用いて講義形式ですすめる。

#### <評価方法の詳細>

授業時間2/3以上の出席、演習の取り組みへの態度、提出物、発表会参加への態度をもって評価する。

#### <必携図書>

系統看護学講座 専門分野Ⅱ 小児看護学①,小児看護学概論小児臨床看護総論,医学書院

#### <自己学習のポイント及び参考図書>

厚生省の指標増刊 国民衛生の動向2019/2020,一般財団法人厚生労働統計協会

#### <履修上の注意点>

新聞や雑誌、ニュースなどで、小児に関することは、日常関心をもって情報を得る。  
この講義内容は、2年次の小児看護学実習時にも活用できるため、まとめて整理しておく。

#### <学生に向けてのメッセージ>

小児看護をしていく上で大切な統計や法律をしっかり押さえ、子どもがどのような社会に生きているのかを捉えることが重要です。また、子どもは一人では生きていくことはできないため、家族への関わりや社会への関わりを学んでほしいです。

<b>科目名</b>	小児看護総論Ⅱ	<b>必修/選択の別</b>	必修
<b>授業担当者</b>	藤本 未央	<b>評価方法</b>	筆記試験
<b>履修年次</b>	2年・前期	<b>授業形式</b>	講義 演習
<b>単位数</b>	1単位	<b>時間数</b>	30時間

#### <到達目標>

1. 新生児～思春期(青年期)における形態的成長、機能的発達、精神・運動機能の発達を理解し、人間として成熟していく過程を知る。
2. 小児の健やかな発達を促す看護の役割と看護の技術を理解する。
3. 成長発達を促す、子供の生活や遊びについての援助を学ぶ。

#### <授業内容>

- 第1回・第2回 子どもと家族を取り巻く環境 4H  
子どもと家族、子どもと医療、小児を取り巻く社会環境、子どもの権利条約  
小児看護学における成長・発達とは、また、それを学ぶ意義は
- 第3回 子どもの成長発達と遊び① 2H  
成長発達の復習、新生児～乳児期の成長発達と遊び
- 第4回・第5回 子どもの成長発達と遊び②、予防接種 4H  
小児にとっての遊びの意味 予防接種法と歴史、 予防接種の種類と接種方法
- 第6回・第7回 学童、思春期の成長発達① 4H  
学童期の身体・心理・社会的発達
- 第8回・第9回 学童、思春期の成長発達①、子どもの栄養① 4H  
学校保健・学童期の健康問題 必要所要量、離乳食
- 第10回 子どもの栄養①離乳食の調理と試食 2H
- 第11回 実習前 成長発達に関する演習① 2H
- 第12回 実習前 成長発達に関する演習② 2H
- 第13回・第14回 実習後の演習・まとめ、子どもの貧困について考える① 4H  
保育園実習での体験を基に演習と発表を行う。「それでも生きる子供たちへ」の鑑賞
- 第15回 子どもの貧困について考える② 2H

#### <授業方法>

- 第1回～第5回は講師作成のパワーポイントと教科書を用いて講義形式ですすめる。  
第6回は離乳食の調理と試食をする。  
第7回～第10回は演習とグループごとの発表を行う。

#### <評価方法の詳細>

- 授業時間2/3以上の出席をもって筆記試験の受験資格が得られる。  
評価は前期終講試験において合計100点の筆記試験を実施し評価する。

#### <必携図書>

系統看護学講座 専門分野Ⅱ小児看護学①,小児看護学概論小児臨床看護総論,医学書院

#### <自己学習のポイント及び参考図書>

厚生省の指標増刊 国民衛生の動向2018/2019,一般財団法人厚生労働統計協会

#### <履修上の注意点>

- 演習もいくつかあるため、各自が積極的に参加してください。  
第6回は調理をするため、エプロンを用意してください。

#### <学生に向けてのメッセージ>

小児看護学実習Ⅰ(保育園実習)で受け持つ月齢の成長発達を学ぶと共に、子どもたちの置かれている社会背景について一緒に学びましょう。また、子どもを対象としたボランティアなどもあるため、積極的に参加し、子どもを知っていけると良いと思います。

<b>科目名</b>	小児臨床看護 I	<b>必修/選択の別</b>	必修
<b>授業担当者</b>	宇藤 小林 中込 志村 永井 大島 鶴田 内藤 上嶋	<b>評価方法</b>	筆記試験
<b>履修年次</b>	2年・前期	<b>授業形式</b>	講義形式
<b>単位数</b>	1単位	<b>時間数</b>	30時間

#### <到達目標>

1. 成長発達に影響を及ぼす諸要因を知り、発達には個別性があることを理解する。
2. 子どもと家族を取り巻く社会を理解し、子どもが健やかに成長していくための環境について考える。
3. 子どもの権利条約、児童憲章などの学習を通して子どもの人権について学ぶ。

#### <授業内容>

- 第1回 染色体異常・先天異常(第1章) 2H 講師:宇藤千枝子  
 第2回 新生児 低出生体重児(第2章)・内分泌疾患(第4章) 2H 講師:小林寿自  
 第3回 代謝疾患(第3章)・事故・外傷(第19章) 2H 講師:中込佐和子  
 第4回・第5回 消化器疾患(第9章) 4H 講師:中込佐和子  
 第6回 免疫疾患 アレルギー疾患・リウマチ疾患(第5章) 2H 講師:志村 美智子  
 第7回～第9回 感染症疾患(第6章)・呼吸器疾患(第7章)・眼疾患(第16章)・耳鼻科疾患(第17章) 6H 講師:深澤淳子  
 第10回 循環器疾患(第8章) 2H 永井敬二  
 第11回・第12回 血液造血疾患(第10章)・悪性新生物疾患(第11章) 4H 大島知恵  
 第13回 腎・泌尿器疾患・生殖器疾患(第12章) 2H 鶴田 真  
 第14回 神経疾患(第13章) 2H 上嶋准嗣  
 第15回 精神疾患(第18章) 2H 内藤典子

#### <授業方法>

#### <評価方法の詳細>

授業時間2/3以上の出席をもって筆記試験を受ける資格が得られる。  
 評価は後期終講試験において合計100点の筆記試験を実施し評価する。

#### <必携図書>

奈良間美穂他「系統看護学講座 専門分野Ⅱ 小児看護学② 小児臨床看護各論」医学書院

#### <自己学習のポイント及び参考図書>

坂井建雄他「系統看護学講座 専門分野 人体の構造と機能① 解剖生理学」医学書院  
 塚章「改訂 目で見えるからだのメカニズム」医学書院  
 北里大学病院看護部「NeW 臨床略語辞典」Gakken

#### <履修上の注意点>

多くの講師による講義となるため、資料整理をきちんとすること

#### <学生に向けてのメッセージ>

<b>科目名</b>	小児臨床看護Ⅱ	<b>必修/選択の別</b>	必修
<b>授業担当者</b>	藤本 未央、看護師	<b>評価方法</b>	筆記試験
<b>履修年次</b>	2年・後期	<b>授業形式</b>	講義 演習 当事者授業
<b>単位数</b>	1単位	<b>時間数</b>	30時間

#### <到達目標>

1. 子どもの成長発達や疾患の経過の特性をふまえ、正確に病態をつかむための観察の重要性や苦痛を除去し回復を促進するための援助の方法について学ぶことができる。
2. 治療や検査を子供がその成長発達なりに理解し、病気と闘う主体者になれるような保健指導のあり方を学ぶ。
3. 病気や障害の子供を持つ家族の看護上の問題について理解し、看護の役割を学ぶ。

#### <授業内容>

- 第1回・第2回 小児科外来の実際と看護師の役割 乳幼児健診、予防接種 4H 講師:看護師
- 第3回 小児病棟の特徴、入院時の看護、小児科看護師の役割 2H 講師:看護師
- 第4回 川崎病、喘息、食物アレルギー 2H 講師:看護師
- 第5回 消化器症状(嘔吐・下痢・脱水)、腸重積・急性胃腸炎 2H 講師:看護師
- 第6回 ウィルス性疾患 2H 講師:看護師
- 第7回 細菌性疾患(百日咳・ジフテリア・破傷風等)けいれん性疾患(てんかん・熱性けいれん)脳性麻痺 2H 講師:看護師
- 第8回 誤飲・熱傷・ショック 2H 講師:藤本未央
- 第9回 急性リンパ性白血病・糖尿病 2H 講師:藤本未央
- 第10回 検査・処置を受ける子どもの看護 2H 講師:藤本未央
- 第11回・第12回 小児リハビリテーションの意義 4H 講師:小児セラピスト
- 第13回 児童発達支援事業所の職員、利用している保護者の話(当事者授業) 2H 講師:施設職員、保護者
- 第14回・第15回 小児リハビリテーションのまとめと発表 4H 講師:藤本未央、小児セラピスト

#### <授業方法>

- 第1回～10回は講師作成のパワーポイントと教科書を用いて講義形式ですすめる。
- 第11回・第12回は臨床の小児セラピストによる講義と演習ですすめる。
- 第13回は当事者に来校していただき講堂で2グループに分かれて話を聴く。
- 第14回・第15回は全ての小児看護学実習を終えて、小児リハビリテーションのまとめと発表を行う。

#### <評価方法の詳細>

- 授業時間2/3以上の出席をもって筆記試験を受ける資格が得られる。
- 評価は後期終講試験において合計100点の筆記試験を実施し評価する。

#### <必携図書>

系統看護学講座 専門分野Ⅱ 小児看護学② 小児臨床看護各論, 医学書院

#### <自己学習のポイント及び参考図書>

小児看護学実習Ⅱで活用出来る内容が多いため、整理しファイルしておくが良い。

障害を知る本⑦ 自閉症の子どもたち, 大月書店

#### <履修上の注意点>

当事者の方が来校してお話をしてくれます。このような貴重な経験はできないため、休まず真剣に聴いて欲しいと思います。

#### <学生に向けてのメッセージ>

実際に現在小児看護を行っている講師から講義が受けられるため、多くを吸収し、小児看護学実習Ⅱに活かしてほしいと思います。

<b>科目名</b>	母性看護学総論 I	<b>必修/選択の別</b>	必修
<b>授業担当者</b>	河野朝呼	<b>授業評価</b>	総合評価
<b>履修年次</b>	1年 後期	<b>授業形式</b>	講義
<b>単位数</b>	1単位	<b>時間数</b>	15時間

#### <到達目標>

母性看護の基盤となる概念である、人間の性と生殖の持つ意味、メカニズムを科学的に理解し、“人権の尊重・自由と責任・男女の平等・連帯と責任のあり方”および母性の視点から「健康」について考える。

#### <授業内容>

第1回・第2回 母性とは(第1章) 4H  
母性とは  
母子関係と家族発達

第3回・第4回 セクシュアリティ(人間と性) 4H  
セクシュアリティとは  
セクシュアリティの発達と課題  
セクシュアリティの特性

第5回・第6回 生命の尊厳と倫理 4H  
生命倫理の基本的考え  
人工妊娠中絶における倫理的問題  
人工妊娠中絶の方法と許可条件  
人工妊娠中絶の看護

第7回・第8回 性暴力 3H  
性暴力とは  
DV  
性暴力被害者・加害者への援助

#### <授業方法>

講師作成のパワーポイントと資料、教科書を持ちいて講義形式ですすめる。

#### <評価方法>

授業時間10時間以上の出席をもって総合評価とする。  
授業前後の自身の認識を記載し提出する。

#### <必携図書>

系統看護学講座 専門分野Ⅱ 母性看護学概論 母性看護学①, 医学書院

#### <自己学習のポイント及び参考図書習>

日常的に性を取り巻く社会的変化や制度などに関心を持ち、新聞、ニュースなどから情報を得、自己の考えを加えて研鑽を積む。

#### <履修上の注意点>

学生に向けてのメッセージ

#### <学生に向けてのメッセージ>

本教科は、母性看護の基盤となる概念の学習であり、人が生きていくうえで重要な学習内容である。授業の各テーマには正解がなく、授業者のみなさんが自由に誠実に考え、自身の概念を豊かに発展させることが出来るような授業にしたいと考えている。

<b>科目名</b>	母性看護学総論Ⅱ	<b>必修/選択の別</b>	必修
<b>授業担当者</b>	河野朝呼	<b>評価方法</b>	筆記試験
<b>履修年次</b>	2年・前期	<b>授業形式</b>	講義 当事者授業
<b>単位数</b>	1単位	<b>時間数</b>	30時間
<b>&lt;到達目標&gt;</b>			
<p>1.人間の成長発達過程と母性との関連を学び、母性看護の目的と看護の役割を考える。</p> <p>2.母性を取り巻く社会環境の変化と母性看護の変遷を理解し、健全な性・生殖、母性の発達を保障するための母子保健活動について理解する。</p>			
<b>&lt;授業内容&gt;</b>			
<p>第1回・第2回 母性看護の歴史的変遷と現状（第2章）4H 母性看護の変遷 母子保健統計からみた動向</p> <p>第3回・第4回 母性看護に関する組織と法律（第2章）4H 母性看護に関する組織 / 母子保健施策からみた現状 母性看護に関する法律</p> <p>第5回・第6回 女性の生殖器と機能（第3章）4H 女性の生殖器の形態・機能 ホルモンの変化 / 月経異常</p> <p>第7回・第8回 女性のライフステージ（第3章）4H 女性のライフステージ ライフステージ各期の身体・精神・社会的特徴</p> <p>第9回・第10回 不妊治療と看護（第2章）4H 不妊の定義とその原因 高度生殖医療 / 不妊治療の問題点と看護</p> <p>第11回・第12回 リプロダクティブヘルスケア（第6章）4H 家族計画 性感染症とその予防</p> <p>第13回・第14回 周産期の対象理解 当事者授業 4H</p> <p>第15回 母性看護に必要な看護技術（第4章）2H 対象理解と看護問題 / 基盤となる看護援助</p>			
<b>&lt;授業方法&gt;</b>			
<p>講師作成のパワーポイントと資料、教科書を持ちいて講義形式ですすめる。</p> <p>第13・14回は、当事者の母親に来校いただき周産期にある対象者の理解につなげる。</p>			
<b>&lt;評価方法の詳細&gt;</b>			
<p>授業時間2/3以上の出席をもって筆記試験の受験資格が得られる。</p> <p>評価は、前期終講試験において合計100点の筆記試験を実施し評価する。</p>			
<b>&lt;必携図書&gt;</b>			
<p>系統看護学講座 専門分野Ⅱ 母性看護学概論 母性看護学①, 医学書院</p> <p>系統看護学講座 専門分野Ⅱ 母性看護学各論 母性看護学②, 医学書院</p> <p>厚生指標増刊 国民衛生の動向 一般財団法人厚生労働統計協会</p>			
<b>&lt;自己学習のポイント及び参考図書&gt;</b>			
<p>日常的に女性を取り巻く社会的変化や制度などに関心を持ち、新聞、ニュースなどから情報を得、自己の考えを加えて研鑽を積む。</p>			
<b>&lt;履修上の注意点&gt;</b>			
<p>関係法規や母性保健は、国家試験に出題されるものも多く含まれるため、主体的に学習出来ると良い。</p>			
<b>&lt;学生に向けてのメッセージ&gt;</b>			
<p>母性看護で一番重要なことは対象理解であると考えている。その材料になり、基盤となる知識の獲得を目指している。</p>			

<b>科目名</b>	母性臨床看護 I	<b>必修/選択の別</b>	必修
<b>授業担当者</b>	産婦人科医師、河野 朝呼	<b>評価方法</b>	筆記試験
<b>履修年次</b>	2年・前期	<b>授業形式</b>	講義
<b>単位数</b>	1単位	<b>時間数</b>	30時間

#### <到達目標>

1. 周産期の生理的特徴を理解し、正常・異常について学ぶ。
2. 新生児の生理的特徴を理解し、正常・異常について学ぶ。

#### <授業内容>

- 第1回～第4回 妊娠期における看護(第3章) 8H 講師:産婦人科医師  
 妊娠期の身体的特性  
 妊娠期の心理・社会的特性  
 妊娠の異常
- 第5回～第8回 分娩期における看護(第4章) 8H 講師:産婦人科医師  
 分娩の要素  
 分娩の経過  
 分娩の異常
- 第9回～第11回 産褥期における看護(第6章) 6H 講師:産婦人科医師  
 産褥経過  
 産褥期の異常
- 第12回 婦人科疾患の看護 2H 講師:産婦人科医師  
 女性生殖器疾患  
 女性生殖器疾患の看護
- 第13回～第15回 新生児期における看護(第5章) 6H 講師:河野朝呼  
 新生児の生理  
 新生児の異常と看護

#### <授業方法>

講師作成のパワーポイントと資料、教科書を持ちいて講義形式ですすめる。

#### <評価方法の詳細>

授業時間2/3以上の出席をもって筆記試験の受験資格が得られる。  
 評価は、前期終講試験において合計100点の筆記試験を実施し評価する。

#### <必携図書>

系統看護学講座 専門分野Ⅱ 母性看護学各論 母性看護学②, 医学書院  
 系統看護学講座 専門分野Ⅱ 成人看護学⑨ 女性生殖器疾患, 医学書院

#### <自己学習のポイント及び参考図書>

周産期の生理的特徴と異常で理解の浅かった事柄を、教科書、参考書で調べ理解を深める。  
 系統看護学講座 専門分野 人体の構造と機能① 解剖生理学, 医学書院  
 改訂 目で見るからだのメカニズム, 医学書院

#### <履修上の注意点>

#### <学生に向けてのメッセージ>

本教科の内容の理解が、後期に続く母性臨床看護Ⅱに繋がるため、必ず理解し実習での看護実践に繋がるようにしましょう

<b>科目名</b>	母性臨床看護Ⅱ	<b>必修/選択の別</b>	必修
<b>授業担当者</b>	病院助産師、河野朝呼	<b>評価方法</b>	筆記試験
<b>履修年次</b>	2年 後期	<b>授業形式</b>	講義 校内実習
<b>単位数</b>	1単位	<b>時間数</b>	30時間

#### <到達目標>

1. 周産期看護の看護技術を学ぶ。
2. 新生児看護の看護援助を学ぶ。

#### <授業内容>

第1回・第2回 妊娠期における看護(第3章) 4H 講師:病院助産師  
妊婦と胎児のアセスメント 妊婦と家族の看護

第3回～第6回 分娩期における看護(第4章) 8H 講師:病院助産師  
産婦・胎児、家族のアセスメント 産婦と家族の看護 分娩期の看護の実際

第7回・第8回 産褥期における看護(第6章) 4H 講師:病院助産師  
褥婦のアセスメント 褥婦と家族の看護 施設退院後の看護

第9回・第10回 新生児期における看護(第5章) 4H 講師:河野朝呼  
新生児のアセスメント 新生児の看護

第11回・第12回 低出生体重児の看護(第7章) 4H 講師:河野朝呼

第13回 ハイリスク妊婦、異常のある褥婦の看護(第7章) 2H 講師:河野朝呼

第14回・第15回 周産期看護の実際 4H 講師:河野朝呼、病院助産師

#### <授業方法>

第1～13回までは、講師作成のパワーポイントと資料、教科書を持ちいて講義形式ですすめる。  
第14・15回は、実習室において白衣で校内実習形式ですすめる。

#### <評価方法の詳細>

授業時間2/3以上の出席をもって筆記試験の受験資格が得られる。  
評価は、前期終講試験において合計100点の筆記試験を実施し評価する。

#### <必携図書>

系統看護学講座 専門分野Ⅱ 母性看護学各論 母性看護学②, 医学書院

#### <自己学習のポイント及び参考図書>

周産期の生理的特徴と異常で理解の浅かった事柄を、教科書、参考書で調べ理解を深める。  
写真でわかる母性看護技術, インターメディカ  
妊産褥婦のケア、驟雨三期の看護技術、新生児の観察と看護技術, 医歯薬出版  
医学映像セレクト「看護 産褥経過のアセスメントと支援の実際 Vol.1 出産直後からの育児支援」  
医学映像セレクト「看護 産褥経過のアセスメントと支援の実際 Vol.2 産褥早期の母親へのアセスメントと支援」

#### <履修上の注意点>

周産期の特性理解やイメージしにくい援助などを、上記動画や参考書を活用し母性看護学実習に備える。

#### <学生に向けてのメッセージ>

本教科の内容の理解が、母性看護学実習に必須の内容となるため、必ず理解し実習での看護実践に繋がるようにしましょう

科目名	精神保健 I	必修/選択の別	必修
授業担当者	松井 紀和、押領司 民	評価方法	総合実習
履修年次	1年・前期	授業形式	演習
単位数	1単位	時間数	15時間

#### <到達目標>

自己を開放し、自由に自己表現していくことを通し、自己理解、他者理解を深める。

#### <授業内容>

看護師は集団として患者に関与するグループワーカーとしての役割を担います。特に精神医療の場では、多種多様なグループ活動がなされています。看護師は、その中心的なメンバーとして、グループの力動に習熟し、グループ活動を推進させる役割をもちます。

授業を通して、集団における自己の役割を意識しましょう。

第1回～第4回 一日目 セッション1自己紹介 セッション2絵を使った表現 セッション3楽器を使った表現  
セッション4歌と踊りを使った表現

第5回～第8回 二日目 セッション5身体で意思を伝える その他

#### <授業方法>

日常の学校生活から離れ、甲斐市双葉ふれあい文化会館(〒400-0105 山梨県甲斐市下今井230 JR中央線塩崎駅下車徒歩3分)で行います。大小のグループに分かれ、音楽や描画等の自己表現を通して自己理解と他者理解を深めます。

#### <評価方法の詳細>

出席時間と授業への参加の状況を加味し、担当講師の基準に基づき合否を決める。

#### <必携図書>

#### <自己学習のポイント及び参考図書>

#### <履修上の注意点>

服装:軽装で動ける服装(ジャージやトレーナーなど)。スカート、ハイヒールやサンダルは不向き。

持ち物:昼食と筆記用具(書くもののみでよい。ノート類は不要)、名札

館内はすべて禁煙。セッション中は飲食は禁止。セッション中はスマホを持たない。かばんにしまうこと。

#### <学生に向けてのメッセージ>

対象者の理解を深め看護師個々が「自分らしい」看護を展開するために、グループダイナミクスで生じる心の動きや自己表現を通して対人関係能力を向上させることを目指しています。楽しみながら参加して下さい。

<b>科目名</b>	精神保健Ⅱ	<b>必修/選択の別</b>	必修
<b>授業担当者</b>	齊藤 徳仁、中嶋 はるか、押領司 民	<b>評価方法</b>	筆記試験
<b>履修年次</b>	2年・後期	<b>授業形式</b>	講義
<b>単位数</b>	1単位	<b>時間数</b>	30時間

#### <到達目標>

1. 精神医療の歴史を学び、精神障害を持つ人々の人権について考える。
2. 「精神の健康」に関する基本概念を理解し、精神の健康を保障していく精神保健の意義を学び、看護の役割について考える。

#### <授業内容>

- 第1回 精神看護とは(序章) 2H 講師:押領司民  
 第2回 精神保健医療福祉の歴史と現在の姿(第7章) 2H 講師:押領司民  
 第3回～第15回 「精神(心)の捉え方」(第1章) 4H 講師:齊藤徳仁・中嶋はるか  
 「精神(心)の発達に関する主要な考え方」(第2章) 4H 講師:齊藤徳仁・中嶋はるか  
 「家族と精神(心)の健康」(第3章) 4H 講師:齊藤徳仁・中嶋はるか  
 「くらしの場と精神(心)の健康」(第4章) 4H 講師:齊藤徳仁・中嶋はるか  
 「精神(心)の危機状況と精神保健」(第5章) 4H 講師:齊藤徳仁・中嶋はるか  
 「現代社会と精神(心)の健康」(第6章) 6H 講師:齊藤徳仁・中嶋はるか

#### <授業方法>

講師作成のパワーポイントと教科書を用いて講義形式で進める。

#### <評価方法の詳細>

授業時間2/3以上の出席をもって筆記試験の受験資格が得られる。  
 評価は前期終講試験において合計100点の筆記試験を実施し評価する。

#### <必携図書>

神郡博他「新体系看護学全書 精神看護学① 精神看護学概論 精神保健」メヂカルフレンド社

#### <自己学習のポイント及び参考図書>

医学映像セレクトの視聴  
 「看護 目で見る精神看護 精神科医療と福祉の現状(Vol.1)」

#### <履修上の注意点>

脳の構造と認知機能について復習をしておくこと。

#### <学生に向けてのメッセージ>

精神看護学領域の対象は、乳幼児期から老年期まで全てのライフサイクルの人々です。そのため、健康な人々を含めた全ての人々の精神の健康を保障するための精神保健の意義と看護師の役割を学びます。

<b>科目名</b>	精神臨床看護 I	<b>必修/選択の別</b>	必修
<b>授業担当者</b>	佐藤琢也、精神科医師	<b>評価方法</b>	筆記試験
<b>履修年次</b>	3年・前期	<b>授業形式</b>	講義
<b>単位数</b>	1単位	<b>時間数</b>	30時間

**<到達目標>**

精神に障害を持つ人の病態を理解し、社会参加を保障する治療や検査を学び、対象の人権を守る看護者としての態度を養う。

**<授業内容>**

第1回 精神医学の歴史、疾病分類 精神症状、状態像 2H 佐藤 琢也  
 第2回・第3回 器質性精神障害(主に認知症とせん妄)中毒性精神障害(主にアルコール依存症) 4H 精神科医師  
 第4回 精神病性障害(主に統合失調症①) 2H 精神科医師  
 第5回 精神病性障害(主に統合失調症②) 2H 佐藤琢也  
 第6回・第7回 気分障害(主にうつ病と双極性感情障害) 4H 精神科医師  
 第8回・第9回 神経症性障害(パニック障害、強迫性障害等) 4H 佐藤琢也  
 第10回・第11回 生理的障害(摂食障害と睡眠障害) 4H 佐藤琢也  
 第12回・第13回 知的障害・人格障害(パーソナリティ障害) 4H 佐藤琢也  
 第14回 児童思春期の精神障害(主にPDD、ADHD、思春期心性) 2H 佐藤琢也  
 第15回 薬物療法、電気痙攣療法、精神療法 2H 佐藤琢也

**<授業方法>**

講師作成のパワーポイントと教科書を用いて講義形式ですすめる。

**<評価方法の詳細>**

授業時間2/3以上の出席をもって筆記試験の受験資格が得られる。  
 評価は前期終講試験において合計100点の筆記試験を実施し評価する。

**<必携図書>**

武井麻子「系統看護学講座 専門分野Ⅱ 精神看護学① 精神看護の基礎」医学書院  
 みんなのメンタルヘルス <http://www.mhlw.go.jp/kokoro/> 厚生労働省ポータルサイト

**<自己学習のポイント及び参考図書>**

**<履修上の注意点>**

**<学生に向けてのメッセージ>**

<b>科目名</b>	精神臨床看護Ⅱ	<b>必修/選択の別</b>	必修
<b>授業担当者</b>	押領司 民、有野 哲章、看護師	<b>評価方法</b>	筆記試験
<b>履修年次</b>	3年 前期	<b>授業形式</b>	講義
<b>単位数</b>	1単位	<b>時間数</b>	30時間

#### <到達目標>

1. 精神の健康問題に直面している患者に対する看護の役割を学ぶ。
2. 精神に障害をもつ人の社会参加のために、保健・医療・教育に従事する人々がどのような役割を果たしているか、また、家族や地域住民も含めた、ネットワークを理解し、看護の役割について学ぶ。
3. 精神障害の病態を科学的にとらえ、生活史を総合し対象を捉える重要性について学ぶ。

#### <授業内容>

- 第1回 精神障害と治療の歴史・法制度 2H 講師:押領司民  
 第2回 ケアの原則と方法 患者-看護師の関係のアセスメント 2H 講師:押領司民  
 第3回～5回 心病む人とその家族、および生活支援員の話(当事者授業) 6H 講師:押領司民  
 第6回・7回 精神看護学実習Ⅰのまとめの発表会 4H 講師:押領司民  
 第8回・第9回 統合失調症患者の看護 4H 講師:看護師  
 第10回・第11回 うつ病患者の看護 行動性制限最小化と人権 各種の非特異的症狀 4H 講師:看護師  
 第12回・第13回 自殺念慮への対応 薬物療法 4H 講師:看護師  
 第14回・第15回 心病む人の生活支援 4H 講師:有野哲明章

#### <授業方法>

講師作成のパワーポイントと教科書を用いて講義形式ですすめる。

#### <評価方法の詳細>

授業時間2/3以上の出席をもって筆記試験の受験資格が得られる。  
 評価は前期終講試験において合計100点の筆記試験を実施し評価する。

#### <必携図書>

武井麻子「系統看護学講座 専門分野Ⅱ 精神看護学① 精神看護の基礎」医学書院  
 武井麻子「系統看護学講座 専門分野Ⅱ 精神看護学① 精神看護の展開」医学書院

#### <自己学習のポイント及び参考図書>

#### <履修上の注意点>

第3回～第5回は当事者授業となる。欠席した場合は、代替が必要となるため、注意すること。また、当日は教室内を整え、失礼が無い態度で迎えること。

#### <学生に向けてのメッセージ>

精神病院では、年々入院期間短縮され、早期退院が可能になっている。しかし、入院患者全体の50%は5年以上の入院であり、長期入院患者の層と、早期退院患者の層の2極分化が進んでいる。私達医療者は、心病む人たちの立場に立って、地域生活を支える続けることが求められている。